

RSView Supervisory Edition

テクニカルデータ

RSView Supervisory Editionは、エンタープライズ全体に製造動作からデータをモニタ、制御、収集するためのWindows 2000ベースのHMIソフトウェアプログラムです。RSView EnterpriseシリーズのキーコンポーネントであるRRSView SEは、プラント全体にわたってクリティカルなデータをオペレータに提供するため、リアルタイムの動作を決定できます。また、RSView SEは、完全なパフォーマンスを確実にこなえるように重要な動作情報をスーパーバイザと管理に提供します。



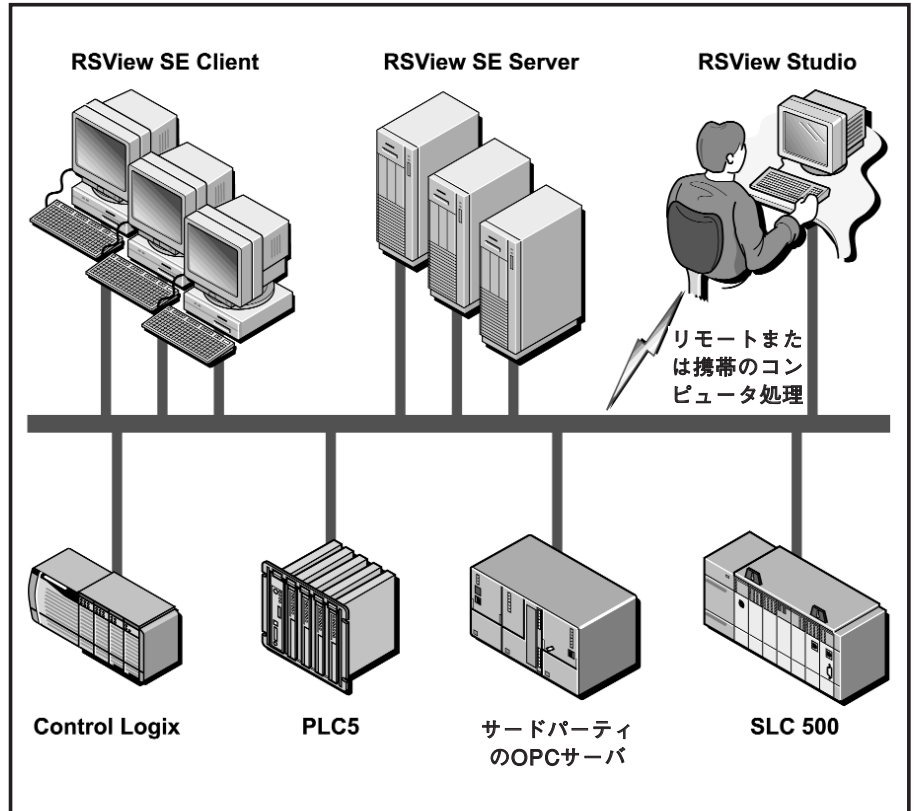
RSView Supervisory Editionは、必要

な情報を必要な場所と必要な時に得るための方法を提供する、ロックウェル・オートメーションのViewAnyWareストラテジの一部です。

アーキテクチャおよび拡張性

マルチサーバ/マルチ・クライアント・アプリケーションの構築について、RSView Supervisory Editionには、RSView32テクノロジーに基づく分散と拡張性の高いアーキテクチャがあります。アプリケーションは、すべてのEnterpriseシリーズ製品に共通する開発とテスト環境であるRSView Studioで開発されます。アプリケーションはRSView SEシリーズで開発され、アラームとイベント管理、プロセスデータの収集、履歴データログ、および他のランタイムプロセスを実行します。データは、情報を表示してオペレータにコントロールインターフェイスを提供する、RSView SEクライアントから視覚化され制御されます。

RSView Supervisory Editionの鍵は分散アーキテクチャで、複数のサーバとクライアントで分散アプリケーションが可能になり、どこでも、いつでもデータを実際に見ることができるようになります。複数のプロセスに接続されたサーバからの情報は複数のクライアントにデータを提供でき、マネージャとオペレータは必要な情報をすべて、および必要な情報のみを見ることができます。



RSView SEの分散設計は、多種多様なアプリケーション構成にできます。すでにプロセスの一部が実行しているスタンドアロンのアプリケーションである複数のHMIプロジェクトは、これで1つの分散アプリケーションに統合でき、その情報はすべてのユーザに使用可能です。SEクライアントステーションで実行している1つの画面にはさまざまなSEサーバからのデータが入っており、アプリケーションのどこからでも情報を見ることができます。

RSView Supervisory Editionは、RSView Studio構成環境付きのポータブルソリューションを提供し、RSView Machine Edition™からプロジェクト全体をインポートでき、またはMachine EditionコンポーネントをRSView SEにドラッグ&ドロップします。

RSView Supervisory Editionは、RSView32™テクノロジーに基づいた、コンシューマ製品、水と廃水、石油とガス、バルブと紙、製薬などの幅広いディスクリットおよびプロセス動作に使用できるテスト済みのソフトウェア製品です。

推奨する接続性

RSView Supervisory Editionは、RSLinxまたはPCを介するシームレスな相互運用性を有効にすることによって「好ましい」OPC[®]デバイスまたはロックウェル・オートメーションのコントローラとの接続性を提供します。

FactoryTalk[™]による有効

FactoryTalkは、製造アプリケーションを企業間でシームレスに統合できるようにするための共通の基盤で、製造企業のすべてのレベルでの情報の透明性に加えてサプライヤとカスタマに接続性を提供します。

FactoryTalkは、工場の自動化システムと製造プロセスを説明するために共通の言語を提供することによってクリティカルなプラントフロアのデータを企業の残りと共有するため、ロックウェル・ソフトウェアの製造ソリューションが簡単になります。結果として、実装時間が短縮され、製造現場のソリューション間に真の相互運用性、および製造データを企業の残りと共有するための一貫したフォーマットがもたらされます。

アプリケーションの開発

RSView Studio

RSView Supervisory Editionアプリケーションは、パワフルで使用が簡単な設計環境のRSView Studioを使用し開発されます。RSView Studioの直感的なユーザーインターフェイスによって、小型でシングルユーザのアプリケーション、または大規模なマルチユーザ/分散サーバアプリケーションを素早く簡単にアプリケーション開発できます。

RSView StudioはEnterpriseシリーズ製品に共通の設計環境で、マシンレベルから監視レベルまでの共通のユーザの経験を提供します。設計環境がプラットフォームで同じであるために、RSView Studioを使用すると、トレーニング、エンジニアリング、および開発時間を削減できます。また、RSView Studioはマシンレベルと監視レベルのアプリケーション間に移植性を提供し、RSView Machine Editionで作成されたプロジェクトをRSView Supervisory Editionで再使用できるようにして

います。グラフィックス画面などのコンポーネントは、RSView MEプロジェクトからRSView SEアプリケーションにドラッグできます。

RSView Studioのアプリケーションツリーはアプリケーションにインターフェイスを提供し、システム内のすべてのコンポーネントを見て調べることができます。階層制のインターフェイスによってコンポーネントを追加したり削除でき、コントローラタグをブラウズするためのデータサーバへの方法をすべて突き止めることができます。

エリアモデル

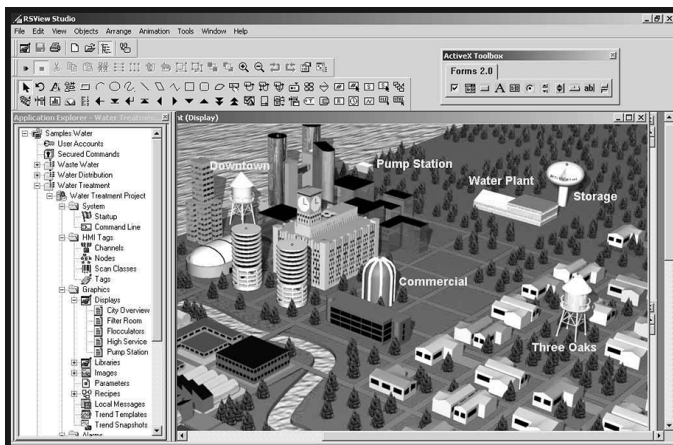
RSView Supervisory Editionのエリアモデルは、分散アプリケーションを「エリア」、またはプロセスの設備やステージ内のエリアに論理的に対応するピースに分割する機能を提供します。これらのユーザ定義のエリアには、ランタイム動作を実行し、プロセス内のクライアントに情報を提供するタグサーバまたはHMIサーバが含まれています。アプリケーション内のエリアとは、プラント、プロセス、ライン、マシン、またはアプリケーションを検知できるものならなんでもを示します。

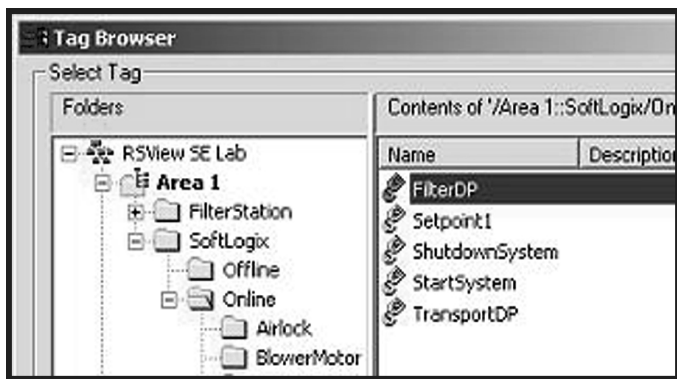
1カ所ですべての制御情報!

RSView SEがOPCまたはRSLinx[™]データサーバを介して個別のプロセッサごとに話すかわりに、FactoryTalkは複数のOPCデータソースを1つのOPCコネクションに集めます。そのために、コントローラからのすべてのデータを1つのアプリケーション全体用のグローバルなネームスペースで見ることができます。グローバルなネームスペースは、異なる多数の内在するデータサーバからタグへのリファレンスを提供します。

「タグを1回だけ作成する」アプローチ

同じ情報を使用する多くの異なる自動化製品では、この制御データを使用する製品ごとにデータベースを作成する必要があり、そのため生産性が低くなる多くの時間を必要とするタスクとなります。他にも方法があります。FactoryTalk Directoryによって、「直接タグ」が使用できるようになります。ロジックプログラムにタグと構造体を作成してから、RSView Supervisory EditionおよびRSSql[™]などのネームスペースクライアントで直接タグまたは構造体を再使用します。そのため、制御プログラムヒューマン・マシン・インターフェイス、およびMESレイヤに複数のタグデータベースの必要がなくなり、これらすべてのレイヤでは同じ情報を使用します。インポート/エクスポートまたはデュプリケーション(複製)がないため、カスタマは1つのデータベースのみを保持する必要があり、変更内容は分散アプリケーションを通じて伝えられます。





階層タグデータベース

RSView StudioのHMIタグデータベースは、PLCからタグを直接参照するのは対照的に、RSView Studioがタグを編成するための簡単で直感的なフォルダ構造を持っていることがわかります。例えば、Tank1のすべてのタグを1つのフォルダに、Tank2のタグを他のフォルダにグループ分けすることができます。RSViewSEでは、すでに作成されたタグデータベースを再使用できます。例えば、タグブラウザは、PLCラダー・ロジック・アプリケーションに使用されているRSView32内の同じタグを再使用できます。タグブラウザを開いて、ポイントしてから、タグをクリックして選択するだけです。データベース全体をインポートする必要はありません。

位置の透明性

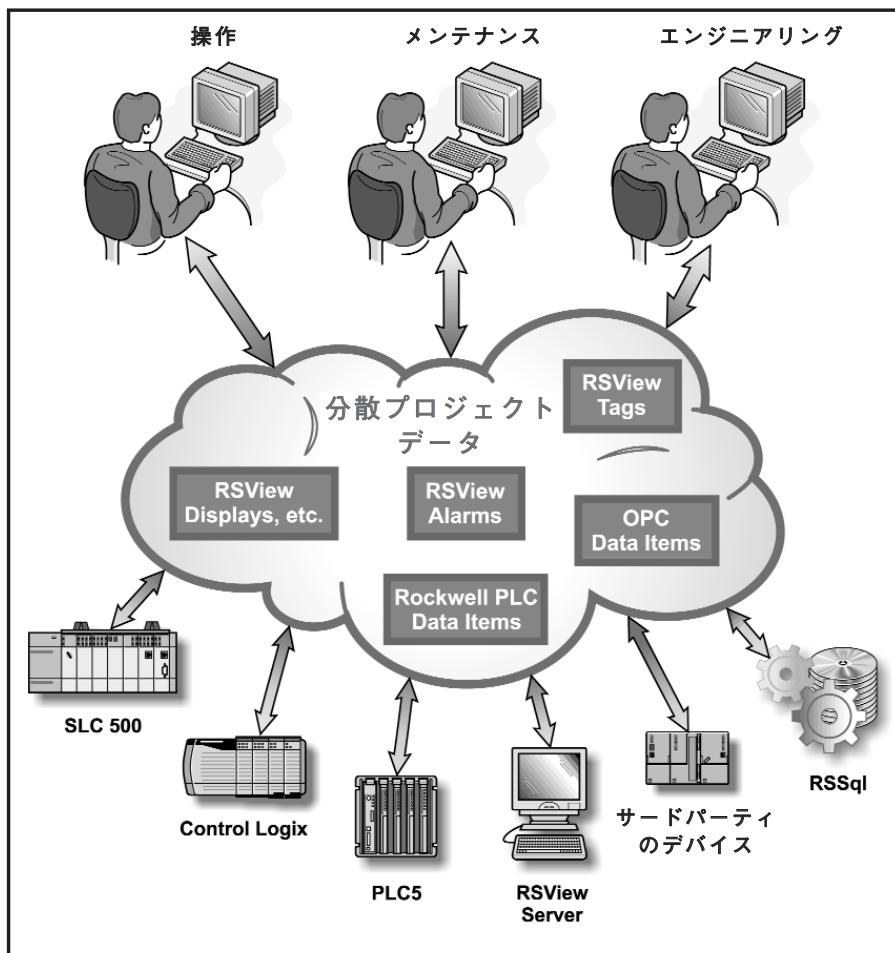
FactoryTalk Directoryは、データプロバイダからの情報をデータコンシューマにマップします。例えば、FactoryTalkは、OPCおよびRSLinxデータサーバからの情報をRSView SEにマップします。サーバのホストであるコンピュータ名は、RSView SEに透過です。これは、位置の透明性として参照されます。そのため、データサーバのホストコンピュータが故障したときに、RSView SEと関係なく他のコンピュータに自動的に置換できます。さらに、タグ名が、論理エリアでのみ特定のコンピュータに対応していないため、アプリケーションのライン全体またはエリアからHMIプロジェクトおよびロジックプログラム全体を複製して、同じアプリケーションでそれらを再使用できます。タグの名前を変更する必要はありません。

タグブラウザ

「直接タグ」または「HMIタグ」のいずれを使用するかに関係なく、RSView Studioは、アプリケーションのそのサーバからもPLCプログラムまたはHMIタグデータベースに含まれるタグの階層フォルダをブラウズすることができるブラウザを提供します。これによって、タグ情報に簡単に直感的にアクセスできるようになります。

リモート編集

RSView Supervisory Editionの分散編集機能によって、HMI開発者がネットワーク上の任意のコンピュータからアプリケーションをリモートに開発および配置できるようになります。複数の開発者が、アプリケーションに同時にアクセスでき、全体の開発時間を短縮できます。



アプリケーションの作業

完全に配置されたネットワークで作業を行なう必要はありません。ノートブック型のコンピュータのシステム全体を構築でき、この場合に必要なものはRSView SEおよびオフライン制御プログラムです。アプリケーションを構築すると、プラントに利用したり、アプリケーションのホストサーバになる個別のコンピュータに配置できます。これは、各サーバの構成ファイルをホストになるコンピュータにコピーしてから、ラップトップのかわりに新しいホストコンピュータ名を使用するようにFactoryTalkディレクトリの構成を更新するだけで行なうことができます (RSView SEのAdministration Console経由)。また、反対の作業も行なうことができます。配置されたアプリケーションのカスタマが新しい機能を追加したいときは、サイトの外に出て、ノートブック型コンピュータ上の配置されたシステムに移動してから、修正して再度配置します。

描画環境

RSView SE描画環境を使用する高度なグラフィックスを設計します。また、AutoCAD[®]、CorelDRAW[®]、およびPhotoShop[™]などの他の描画ソフトウェアからグラフィックスファイルを使用できます。背景の色、ハイライトの色、入力フィールドテキストとフィルする色、スケーリング、ウィンドウのサイズ、ウィンドウの位置、セキュリティコード、および始動とシャットダウンコマンドなどのディスプレイセットアップ機能のフルセットを使用して、グラフィックスディスプレイの外見をカスタマイズします。また、デフォルト値を設定して、プロジェクト内のすべてのグラフィックスディスプレイに同様な機能を与えることができます。マウスの右ボタンをクリックすると、ショートカットメニューを開くことができます。

ライブラリ

RSView SEには、ネイティブRSView SEグラフィックスと共にライブラリの総合的なセットが入っていて、ディスプレイにドラッグ&ドロップするだけで使用できます。アニメーション付きのグラフィックスの独自のライブラリを作成できるため、よく使用するグラフィックスをまとめておくことができます。ネイティブグラフィックスに加えて、jpg、gif、tiff、bmp、およびwmfなどの多くの異なるファイルフォーマットをインポートでき、アニメーションするためにこれらをネイティブRSView SEグラフィックスに変換できます。

ディスプレイ内のVBA

VBAコードを作成して、グラフィックスディスプレイのランタイム動作をカスタマイズできます。「ディスプレイコード」を使用すると、各ディスプレイはVBフォームのように動作するため、VBAコードはActiveX[®]またはロード、クリックなどのオペレータイベントに対応して動作します。VBAコードはグラフィックスディスプレイに入っているため、ディスプレイを移動すると、コードはそれと共に動きます。ディスプレイコードはクライアントに固有であるため、各クライアントに必要な動作のみを実行するようにカスタマイズできます。

Object Explorer

Windows Explorerと同様に、Object Explorer機能は現在のディスプレイのすべてのオブジェクトを名前によってリストして表示するテキストベースのツリーを提供します。Object Explorerウィンドウで、オブジェクトを選択して、現在のディスプレイの位置にあることを識別します。また、クリア機能のないディスプレイボタンの場合、それらを識別するためにObject Explorerを使用できます。Object Explorerには、グラフィックスのクラスにグループ化されたオブジェクトの1つのイメージ編集の追加された利点があります。個別に編集するため、イメージをグループ解除してから再度グループ化する必要はありません。

ActiveXサポート

ActiveXコントロールを直接RSView SEグラフィックスディスプレイに挿入します。よく使用するActiveXオブジェクトを、1回クリックするだけで使用できるようにカスタマイズされたツールボックスに追加します。特定のニーズに合うように、多数の既製のサードパーティのActiveXコントロールから選択します。ActiveXコントロールプロパティはRSView SEタグにリンクでき、およびActiveXコントロールはディスプレイプロパティまたは他のグラフィックスオブジェクトと相互操作できます。また、外見またはランタイム動作を制御するためにActiveXコントロールをSEのVBAディスプレイコードに密接に統合します。

グループ編集

グループ編集では、編集した後に再グループ化するためのイメージのグループ解除の混乱をなくすことができます。グループ内の個別のオブジェクトへの変更が、グループ編集集中に失われません。グループは、以下を行なうことができます。

- オブジェクトに適用されたアニメーションに関係なく、任意のオブジェクトの組合せを持つことができる。
- アニメーションを「グループ」に全体に適用できる。
- 他のグループを含む。
- 再度サイズを変更する。

Object Smart Path

Object Smart Pathによって、デザイナーはアニメーションの座標をインタラクティブにフィルできます。オブジェクトを希望の位置にドラッグ&ドロップするだけで、RSView SEは正確な位置を計算して、アニメーションのダイアログボックスを元の位置からピクセルオフセットで更新します。

Graphicsエディタでのアニメーションのテスト

RSView SEは、クライアントを起動してHMIサービスをアクティブにすることなく、グラフィックスアニメーションを素早くテストできます。各テストには数秒かかりますが、その結果クライアントおよびサーバを開始するためのテスト時間をセーブできます。

オンスクリーンキーボード

タッチ・スクリーン・ターミナルのオペレータは、ハードウェアまたはソフトウェアキーボードの必要なく、キーボード入力を行なうことができます。オンスクリーンキーボードがグラフィックスディスプレイで有効になっているときは、オペレータが入力フィールドを選択するとキーボードが表示されます。オペレータがテキスト入力フィールドを選択すると、フルQWERTYキーボードが表示されます。オペレータが数値入力フィールドを選択すると、数値キーボードが表示されます。オペレータは、入力した値をキーボードにダウンロードすること、または後でダウンロードするために入力フィールドをアップロードできます。

表示されていないグラフィックスの継続更新

ディスプレイは、表示されていないときでもアクティブに実行したまま、またはフォアグラウンド・スキャン・レートでデータを収集することができます。例えば、この機能を使用すると、グラフィックスディスプレイを閉じているときでもActiveXコントロールはリアルタイムのトレンドデータを継続して実行または更新することができます。

トレンド

これらは、Graphic Displayエディタで作成できるオブジェクトです。アニメーションを他のオブジェクトに割付けるように、アニメーションをトレンドに割付けることができます。例えば、可視性を割付けて、必要なときのみトレンドを表示します。または、ボタンまたはコマンドからトレンドを表示できます。以下を行うことができます。

- 1つのトレンドで100のペンでセットアップして、選択したペンのみを表示することによって画面の散乱を管理する。
- 特定のタグが参照値を超えているときに、シェードを使用して強調できる。
- 同じトレンドディスプレイに同時にリアルタイムおよび履歴トレンドを置換する。
- オーバレイを使用して、実際のデータと希望するデータを比較する。
- トレンドのオブジェクトモデルをディスプレイコードと共に使用する。
- グラフィックスライブラリから、構成済みのトレンドオブジェクトをドラッグ&ドロップする。
- エディタを構成に戻す必要なく、実行中にペンを追加する。

コマンドウィザード

RSView SEは、コマンドウィザードなどの生産性が向上する多くのグラフィックスツールを提供して、なれない機能でも使えるようにしています。RSView SEが入力を要求したときに、Browseボタンをクリックすると、コマンドウィザードが開いてプロセスをステップごとに示します。

パラメータのパス

ディスプレイを開いたときにパラメータをグラフィックスディスプレイに送信します。ターゲットのグラフィックスディスプレイには、ディスプレイを複製および再使用ときにいつでも異なるタグ名を割付けることのできるプレイホルダを含むことができます。この場合、RSView SEによって、標準的なポップアップ画面で多くの同様なソースからの情報を処理できます。パラメータのパスによって、画面全体にわたって、少ない数の画面で作成、編集、および保存できるようになります。

タグ置換

現在選択されているすべてのグラフィックスオブジェクトに関連するタグ名または文字列を置換できます。文字列を選択して、それを他に置換すると、個別のタグを編集することなく、オブジェクトの1つのセットから他に多数のタグ名に変更することができます。

色の変更

16色のオプションから選択します。1つのオブジェクトに16色野中のいずれかを適用して、値の変更を示すことができます。

Print Displayコマンド

プロジェクト内のどのディスプレイでも、いつでも簡単に素早くプリントできます。ディスプレイが実行していないときでも、グラフィックスディスプレイをデフォルトプリンタにプリントするように指令できます。

ディスプレイタイプ

3つのディスプレイタイプ、Replace、On Top、およびOverlayがあり、実行時にグラフィックスディスプレイを管理できます。Replaceディスプレイタイプは新しいディスプレイを開いて、1つのDisplayコマンドを使用して自動的に開いていたディスプレイを閉じます。On Topディスプレイタイプは、ポップアップディスプレイなどのグラフィックスディスプレイを開いたままにして、画面のすでに開いているウィンドウの上に重ねて表示します。Overlayディスプレイでは、互いにオーバーラップしていても複数のディスプレイを同時に実行できます。

データログ

データログは、最大20の異なるタグモデルで定義された条件の元で特定のタグ値を記録します。データは永久に格納され、トレンドに表示でき、または後から処理または分析するために記録します。ODBCデータベースによって、RSView SEタグデータをMicrosoft[®] SQL Server[™]、ORACLE[®]、またはSybase[™]などのODBC準拠のデータベースにログできます。トレンドで、データをグラフ的に見ることができます。

すべてのログされたデータに対して、セカンダリパスも指定できます。プライマリパスが一杯になるか無効になると、RSView SEはデータを失うことなくセカンダリパスに自動的に切替えます。プライマリパスが回復すると、RSView SEは、セカンダリパスからプライマリパスに戻してデータを自動的にマージするため、すべての情報を1カ所に保持できます。

Alarmエディタ

RSView SEは、完全なアラームシステムを提供します。画面では、アラームメッセージを表示して、ログできます。また、ODBCデータベースにすべてのアラームを転送する集中管理されたログを保持する、定期的なセントラルログを有効にできます。各アラームサーバには独自のログファイルがあり、アラーム・ログ・ビューワを使用して見ることができます。また、RSView SEには以下のアラームモニタ機能もあります。

- 分散アラームモニタをセットアップする。複数のアラームサーバからアラームを、1つのアラーム・サマリ・ディスプレイにまとめるようにセットアップできる。オペレータは、アラームを1つのステーションで肯定応答でき、すべてのステーションで承認できる。
- HMIサーバ当たりアラームの最大10,000のタグをモニタする。
- 最大8つの重要度レベルを定義して、アラームの表現と音を識別できる。
- 最大8つのアラームスレッシュホールドに異なるアラーム重要度のレベルを定義して、アラームの重要性を示す。プライオリティの高いアラームには、アラームサマリで点滅する色iを指定して注意を引くようにする。
- タグへのアラームスレッシュホールドによって、プロセスで変化する動的なスレッシュホールド値を与える。
- アラームサマリをフィルタして、モニタする必要があるアラームのみを表示する。
- 1つのアラームサマリを設定してから、タグプレイスホルダとワイルドカードに基づいたフィルタを使用して複数のマシンまたは位置で再使用する。
- 複数のHMIサーバからのアラームを1つのアラームサマリで見る。
- 認識機能を使用して、アラームに対応するマクロに、アラームのカスタム処理を指定する。例えば、Displayコマンドを使用して、アラーム状態を解消する方法の命令が指定されたディスプレイを開く。
- メンテナンスとチューニング目的で、アラームを抑制する。
- プログラマブルコントローラに、タグがアラーム発生中であることを通知する。

ディライブドタグ

ディライブドタグの値は、式の結果です。式には、算術演算、FactoryTalkディレクトリ内の任意のタグからのタグ値、if-then-elseロジック、および他の関数を指定できます。ディライブドタグを使用して、タグの継続評価を実行したり、またはループ処理を行なうことができます。ディライブドタグの処理は、HMIサーバで行なわれます。

イベント

イベントとは、動作をトリガする式のことです。イベント検出を使用して、アラームに自動的に応答できません。

マクロ

マクロは、ファイルに格納された一連のコマンドです。RSView SEコマンドを使用できる場所ならどこでも、マクロファイル名をコマンドのように使用して入力できます。マクロファイル名を入力すると、マクロを実行して、ファイル内のコマンドをすべて連続して実行します。

ODBC：オープンデータベースの接続性

すべてのRSView SEのログされたデータは、ODBC準拠です。Microsoft Access[®]などの共通のデータベースツールを使用して、ログされたデータを管理およびサポートできます。データは、Microsoft SQL Server, Oracle, またはSybaseなどのODBCデータソースに直接ログされ、トレンドでデータをグラフ的に見ることができます。

アクティビティログ

アクティビティログは、以下のタイプのシステムアクティビティについての情報を記録します：コマンドおよびマクロの使用量、オペレータのコメント、システムメッセージおよびエラー、通信ネットワークエラー、およびタグからアクティビティの読取り/書込み。また、ODBCデータベースへの定期的なセントラルログを有効にします。すべてのログレコードには、アクティビティを起こすログインユーザのIDとコンピュータ名が入っています。これによって、簡単な分析またはシステム検査を実行するときに、「どのコンピュータから誰が行なったか」を決定できます。アクティビティログをActivity Log Viewerから見て、さらに処置または分析を行なうためにログを記録して、Microsoft Excel, Crystal Reports[™], およびFoxPro[®]などのサードパーティのソフトウェアを使用してログを表示または分析できます。

始動環境

Startup preferencesを使用して、最初にロードしたときにHMIサーバが有効にすべきサービス(アラーム検出、データログ、ディライブドタグの処理、イベント検出など)を指定します。

オンラインドキュメント

RSView SEのCD-ROMには、総合的なユーザズガイド、詳細なオンライン・ヘルプ・ファイル、およびサンプルアプリケーションが入っています。

セキュリティ機能

Windows 2000セキュリティ有効

RSView SEはWindows 2000 Securityを使用して、Windowsユーザグループをサポートして、Windows 2000ドメインにセットアップされたユーザがRSView SEアプリケーションに追加できるようにします。これによって、Windows 2000の持つ高レベルのセキュリティを利用できるようになり、1カ所で作成できるアカウントのタイムスライスがセーブできます。ドメインの更新は、RSView SEに受け継がれます。

アプリケーションのオブジェクトのセキュリティ

RSView SEには16レベルのセキュリティコードがあり、アプリケーション内のオブジェクトを保護するために使用できます。これらのセキュリティコードをRSView SEコマンド、マクロ、HMIデータベースタグ、およびグラフィックスディスプレイに割付けます。個々のユーザまたはユーザグループにセキュリティレベルの組合せを割付けると、ユーザごとに異なる機能のセットにアクセスできるようになります。

オペレータのロックダウン

RSView SEではRSView SEクライアントウィンドウのオペレータを簡単にロックできるため、Windowsオペレーティングシステムに抜けることができません。Windowsでは、Desk Lock (RSView SEのToolsグループ内では)CTRL-ALT-DELを無効にします。また、Desk LockはログオンダイアログなしでもWindowsを起動できる機能を与え、Windows Desktopをパスワードで保護されたデスクトップに置換します。

動作および可視化

アプリケーションはRSView SEサーバ上で実行し、RSView SEクライアントに情報を提供し、オペレータがアプリケーションをモニタして相互作用する場所です。オペレータは、視覚化および制御をセキュリティ設定によって決定できます。クライアントは1つまたは複数のサーバから情報を表示できるため、クライアントごとにオペレータが必要なすべての情報でカスタマイズできます。クライアントのVBAによって、VBAサブルーチンとして各クライアントを独立して実行できるようにさらにカスタマイズできます。

アラーム

RSView SEアラームによって、任意のクライアントからアラームを表示および肯定応答できます。肯定応答はグローバルです。RSView SEクライアントからは、分散アプリケーションのすべての領域からアラームを表示および肯定応答できます。

制御情報へのノンストップアクセス!

Factory Talk Data Accessは、クライアントサーバのコネクションを周期的にテストして、サーバ故障時には適切な動作をとり、自動的にサーバへの再接続ロジックを管理します。基礎となるデータサーバが切り離されていたときは、クライアントは、サーバから出力されるデータ値のOPC定義の品質不良インジケータを受信し、プライマリコンピュータとの通信が失敗したときには構成済みの冗長バックアップコンピュータに自動的に切り換わります。そのため、RSLinxまたはOPCサーバは、故障したときにRSView SEとは関係なく代替データサーバに切り換わるように構成できます。RSView Supervisory Editionは、故障時の切換えを管理する必要はありません。

アプリケーションのオンライン編集

RSView SEでは、HMIアプリケーションを編集するにはシャットダウン動作は必要ありません。RSView SEでは、アプリケーションのコンポーネントをオンラインで編集できます。

制御システムに変更を行なうと(例えば、ディスプレイの変更、プロセッサの移動、タグ構造の変更など)、変更内容はアプリケーションを使用しているサーバまたはクライアントをシャットダウンすることなく、RSView SEによって自動的に受け継がれます。

RSView AdminConsole

RSView AdminConsoleは、システム内の任意またはすべてのコンピュータにインストールできるランタイム保守ツールです。管理コンソールを使用して、ユーザアカウント、保護されたコマンド、チャンネルノード、スキャンクラス、アラームセットアップ、抑制されたリスト、およびデータベースモデルを構成できます。また、コマンドを手動で指令するために各HMIサーバのコマンド行にアクセスして、RSLinxまたはOPCデータサーバにアクセスすることができます。

プラットフォームの推奨要件

RSView Supervisory Editionに使用するハードウェアおよびソフトウェアは、システムに必要とされるアプリケーションによって異なります。大きなシステムであればあるほど、よりパワフルなシステムが必要になります。

以下に最小要件を示します。大規模または複雑なアプリケーションの場合は、高速のCPUと大きなRAMが搭載されたコンピュータを使用しなければなりません。アプリケーションでは、高速のCPUと大きなRAMは、よりよい性能をもたらします。さらに、仮想メモリのために常に十分なディスクスペースが必要になり、それには物理的なRAMのサイズの少なくとも2倍が必要です。

ネットワーク上には、Windows NT ServerまたはWindows 2000 Serverで動作するプライマリ・ドメイン・コントローラが必要です。RSView SEアプリケーションに関連するすべてのコンピュータを、このドメインのメンバーにしなければなりません。RSView SE ServerまたはFactoryTalkディレクトリを、ドメイン・コントローラ・コンピュータにインストールする必要はありません。

RSView SEサーバ、プラットフォームの最小要件

コンピュータ上に1つのRSView SE Server (RSLinx付き)が実行する場合

Pentium® II以降、128MBのRAM以上、Windows 2000 Professional (Service Pack 2以降付き)
Internet Information Server

コンピュータ上に複数のRSView SE Serversが実行する、または他の重要なソフトウェアアプリケーションが共に実行する場合

Pentium III以降、256MBのRAM以上、Windows 2000 Professional (最大10ユーザ)またはWindows 2000 Server (10ユーザ以上) (Service Pack 2以降付き)
Internet Information Server

FactoryTalk Directoryプラットフォームの最小要件

Pentium II以降、128MBのRAM以上、Windows 2000 Professional (最大10ユーザ)またはWindows 2000 Server (10ユーザ以上) (Service Pack 2以降付き)

RSView StudioまたはRSView AdminConsoleプラットフォームの最小要件

Pentium II以降、128MBのRAM以上、Windows 2000 Professional (Service Pack 2以降付き)
Internet Information Server

RSView SE Display Clientプラットフォームの採 草要件

Pentium以降、64MBのRAM以上、Windows 2000 Professional (Service Pack 2以降付き)



ご注文に関する情報

9701-VWSTENE	RSView Studio for RSView Enterprise Series
9701-VWSS025AENE	RSView SE Server 25 Display
9701-VWSS100AENE	RSView SE Server 100 Display
9701-VWSS250AENE	RSView SE Server 250 Display
9701-VWSCWAENE	RSView SE Client
9701-VWSCRAENE	RSView SE Client: View Only
9701-VWSTU1	RSView Studio for ME to RSView Studio for RSView Enterprise Series
9701-VWSS100ENU1	RSView SE Server 25 Display to RSView SE Server 100 Display
9701-VWSS250ENU2	RSView SE Server 100 Display to RSView SE Server 250 Display
9701-VWSS250ENU1	RSView SE Server 25 Display to RSView SE Server 250 Display

Rockwell Software

ロックウェル・ソフトウェアのパッケージの最新の価格またはデモンストレーションの詳細は、当社または当社の代理店までお問い合わせください。ロックウェル・ソフトウェアの製品開発の最新情報については、以下のwebサイトにアクセスしてください。

www.software.rockwell.com

www.rockwellautomation.com

Corporate Headquarters

Rockwell Automation, 777 East Wisconsin Avenue, Suite 1400, Milwaukee, WI, 53202-5302 USA, Tel: (1) 414.212.5200, Fax: (1) 414.212.5201

Headquarters for Allen-Bradley Products, Rockwell Software Products and Global Manufacturing Solutions

Americas: Rockwell Automation, 1201 South Second Street, Milwaukee, WI 53204-2496 USA, Tel: (1) 414.382.2000, Fax: (1) 414.382.4444
Europe: Rockwell Automation SA/NV, Vorstlaan/Boulevard du Souverain 36-BP 3A/B, 1170 Brussels, Belgium, Tel: (32) 2 663 0600, Fax: (32) 2 663 0640
Asia Pacific: Rockwell Automation, 27/F Citicorp Centre, 18 Whitfield Road, Causeway Bay, Hong Kong, Tel: (852) 2887 4788, Fax: (852) 2508 1846

Headquarters for Dodge and Reliance Electric Products

Americas: Rockwell Automation, 6040 Ponders Court, Greenville, SC 29615-4617 USA, Tel: (1) 864.297.4800, Fax: (1) 864.281.2433
Europe: Rockwell Automation, Brühlstraße 22, D-74834 Elztal-Dallau, Germany, Tel: (49) 6261 9410, Fax: (49) 6261 1774
Asia Pacific: Rockwell Automation, 55 Newton Road, #11-01/02 Revenue House, Singapore 307987, Tel: (65) 351 6723, Fax: (65) 355 1733

© 2002 Rockwell Software Inc. All rights reserved. Printed in the United States of America. RSView Supervisory Edition, RSView SE, ViewAnyWare, RSView Studio, RSView Machine Edition, RSView ME, RSView32, RSLinx, RSSql, and FactoryTalk are trademarks of Rockwell Software Inc. Windows 2000, ActiveX, Access, Visio, and FoxPro are registered trademarks, and Microsoft Word, Excel, and SQL Server are trademarks of Microsoft Corporation. AutoCAD is a registered trademark of Autodesk, Inc. CorelDRAW is a registered trademark of Corel Corporation. Photoshop is a trademark of Adobe Systems Incorporated. ORACLE is a registered trademark of Oracle Corporation. Sybase is a trademark of Sybase, Inc. OPC is a registered trademark of The OPC Foundation. Pentium is a registered trademark of Intel Corp. Crystal Reports is a trademark of Crystal Decisions, Inc. All other trademarks are the property of their respective holders and are hereby acknowledged.

Doc ID VIEWSE-TD001A-JA-P